

高齢者を取り巻く現状を踏まえた課題

- 少子高齢化の進展により支えられる世代の増加、支える世代の減少が想定されます。
- 後期高齢者数は増加傾向にあり、要介護者人口の増加による支援ニーズの重度化、介護給付に係る負担の増加が想定されます。
- 高齢者のひとり暮らし世帯・高齢者のみ世帯が増加しており、従来、家族・地域等が受け止めてきた高齢者の支援ニーズの複雑化と顕在化が想定されます。

第3章 今後の高齢者施策を推進していく上での視点及び方向性

1 今後の高齢者施策を推進していく上での視点

(1) 高齢者を取り巻く社会構造等の変化を踏まえた視点

- 人口構造の変化を見据えた高齢者施策の持続性の確保
- 世帯構成の変化等により顕在化・複雑化するニーズへの対応の強化
- 環境の変化や技術革新への適応

(2) 前計画の実績を踏まえた視点

- 地域での介護・フレイル予防、健康づくりの取り組みによる健康寿命の延伸
- 高齢者が生きがいを持ち、意欲的に活動することができる環境の整備
- 安心して自立した生活をするためのきめ細かな支援の充実
- 高齢者の複雑化する課題の解決に向けた地域資源の連携の強化
- 認知症の人と家族が活躍できる機会や場の創出と、認知症への正しい知識・理解を深める取り組みの推進
- 中長期的な需要を捉えた介護サービス基盤の整備
- 多様な介護人材の確保・育成と意欲的に働き続けられる環境づくりの推進

2 今後の取り組みの方向性

- 高齢者が意欲的に社会で活躍し続けられるよう、保健事業等についてコロナ禍の影響からの回復を図ることはもとより、健康寿命の延伸、介護・フレイル予防や保健事業の強化に向けた取り組みの充実を図ります。
- 人口構造が変化していく中においても高齢者施策の持続性を確保していくため、デジタル化社会への適応を図るとともに、市民の機運を醸成しながら協働して取り組む施策の強化を図ります。
- サービス需要の増加や複雑化へもきめ細かく対応できるよう、地域全体の結び付きをより強化し、共生社会の実現に向けた取り組みの推進を図ります。
- 将来にわたって介護サービスが安定的に提供されるよう、計画的な介護サービス基盤の整備を進めるとともに、多様な介護人材の確保に向けた取り組みの推進を図ります。